

お経は、もともとインドの言葉で「スートラ」または「スッタ」と言い、「<sup>たていと</sup>縦糸」という意味があります。

お釈迦さまは多くの苦しんでいる人々に教えを説き人々を導きました。苦しんでいる人々にとってお釈迦さまの言葉はまさに救いの糸のようなものだったのでしょう。

お釈迦さまがお亡くなりになった後、弟子たちはお釈迦さまの教えをまとめました。当時は教えを文字ではなく言葉で何度も繰り返しながら確認をしていったと言われています。大切な教えを自分の心の中にしっかりと留めるために何度も確認し、「この様に私は聞きました・・・」とお釈迦さまの言葉を整理していったのです。それが仏教のお経の始まりでした。

弟子たちは、お釈迦さまの教えの言葉を縦糸にし、自分の修行生活を横糸にし、一枚の布が広がるように仏教を弘めていったのです。

長い歴史を経て、今では仏教は八万四千の教えがあると言われています。つまり数え切れないほどのお経があるのです。

なぜこのように多くのお経があるのでしょうか。

それは第一に根本的な苦しみは同じものがありますが、お釈迦さまは多くの人々のそれぞれの悩み・苦しみに対して、その人に最も適した言葉で説き示したと言われており、多くの教えが残っているからなのです。病気の時、その体の様子を診て薬を出すように、多くの人々の悩み・苦しみに対し、お釈迦さまは言葉による薬をたくさん用意したのです。

第二にお釈迦さまの教えは「唯一絶対なもの」を求めないという特徴があるからです。仏教の基本的な教えは、すべてのものは時と共に移り変わるという「無常」と、すべてのものは独立して存在しないという「無我」、すべてのものはつながっているという「縁起」の教えです。

それを自覚し修行をしていくことで、様々な苦しみから離れ静かな心になると示しています。

多くの弟子たちがそのお釈迦さまの基本的な教えを様々な角度で展開していき、長い時を経てお釈迦さまの教えを発展させ、その時代の多くの人々に受け入れられるように、お釈迦さまの教えを伝えたのです。やがてお釈迦さまの教えだけでなく多く

の弟子たちの教えも仏教のお経と言うようになりました。

仏教が多くの人々に信仰されていったのも、多くの弟子たちがお釈迦さまの教えをあらためて解釈した、この広がりによってでした。

こんにち  
今日、私達は多くのお経を学ぶ事が出来ます。毎日お唱えするお経の中にも、自分が悩み苦しんだときに救いの糸を差しのべてくれるお釈迦さまの教えが示されているのです。

この様なお経を共にお唱えし、学んでみませんか？